様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 ３０ 日現在

機関番号：３５３０５
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2017～2022
課題番号：１７Ｈ０６８７８・１９Ｋ２０７５９

研究課題名（和文）東南アジアにおける介護リゾートの生成と日本式介護の越境化に関する研究

研究課題名（英文）Emerging nursing care facilities at resorts in Southeast Asia and transnationalization of Japanese style care services

研究代表者
小野　真由美（Ono, Maayumi）

ノートルダム清心女子大学・文学部・准教授

研究者番号：００６０９６８８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,040,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、東南アジアにおける介護リゾートの生成と日本式介護の越境化の関連を明らかにすることを目的としている。具体的には、介護リゾートの生成がみられる東南アジアのマレーシア、タイ、フィリピンを事例に、日本人高齢者の国際退職移住が顕著な当該地域における高齢者向けの介護リゾートの生成過程を解明し、「日本式介護」の越境化によるケアに関する知識や技能の越境的伝播とその受容の過程について明らかにした。さらに当該諸国に居住するローカルの高齢者と外国人高齢者の介護をめぐる意思決定と生存戦略をめぐり、外国人高齢者の国際移動の発生に伴う介護サービスの事業化の相関関係が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は、東南アジアにおける介護リゾートの生成と日本の介護技能と知識の越境的伝播を考察する先駆的研究と位置付けられる。ケアの越境化に関する先行研究は、主にケアワーカーとなる移住労働者に関する研究と医療ツーリズムに関する研究という個別の領域において進められてきた。本研究の学術的な特色は、ケアの越境化のアクター間の相関関係に着目している点である。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to explore the relationship between the emerging long-term care resorts and the transnationalization of “Japanese-style care”. In the cases of Malaysia, Thailand, and the Philippines where long-term care resorts have been established and international migration of elderly Japanese has been remarkable, this study indicates that the commoditization of long-term care services for the local as well as foreign elderly people intertwines the increasing flow of foreign retirees.

研究分野：文化人類学、東南アジア地域研究

キーワード：介護リゾート　日本式介護　国際退職移住　マレーシア　タイ　フィリピン　ライフスタイル移住　ケアの越境化

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

近年、東南アジア諸国における高齢者の国際退職移住（international retirement migration）［King et. al., 2001］が進展している。なかでも、政府主導で外国人退職者を誘致するマレーシア、タイ、フィリピンには、欧米や東アジア出身の高齢者が退職者向けの滞在制度を利用し、長期居住している。当該諸国では、外国人高齢者向けのトランスナショナルな退職産業が出現しており［Toyota and Xiang 2012］、高齢者介護のサービスを提供する介護リゾートや退職村が生成している。日本人高齢者の当該諸国への国際退職移住も 2000 年代から増加しており、現地の民間病院や介護事業者によって日本人高齢者向けの 介護施設の事業化が進められた。その結果、要介護の高齢者がケアを求めて国際移動するという欧米の国際退職移住にはみられない新たな国際移動が展開している［小野 2012］。

一方、アジアの国々にとって高齢化が共通課題となりつつあるなか、日本の高齢者介護事業者が東南アジア諸国に進出する動きがみられる。東南アジア諸国では高齢者介護産業が未発達であるものの、中間層・富裕層にとって医療やヘルスケアは資本市場での消費の対象となっており［真野 2014］、新たな市場として日本の高齢者介護事業者の注目を集めている。日本の高齢者介護の技能とサービスは、「日本式介護」として需要の見込める海外の市場に輸出する商品と位置付けられるに至っている［田中 2013］。申請者は、東南アジアにおける日本人高齢者の国際退職移住に関する文化人類学研究を実施し、ケアの越境化を患者・要介護高齢者の国際移動の側面から分析することによって、心身に疾患のある患者や要介護者を含む「労働力を必要とする人」の国際移動としての側面を明らかにした。さらに、日本人高齢者の国際退職移住の進展が、東南アジア諸国への日本の高齢者介護の知識や技能とサービスの越境化を促進する一要因であることが指摘できる(Ono 2015)。

ケアの越境化に関する先行研究は、主にケアワーカーとなる移住労働者に関する研究と医療ツーリズムに関する研究という個別の領域において進められてきた。しかし、東南アジアのケアの越境化は、ケアワーカーとなる移住労働者、医療ツーリズムによる患者の国際移動、および高齢者の国際退職移住、さらに医療者の国際移動による医療のグローバル化の相関関係のなかで生じており、これらの 4 つのアクターの関連を明らかにする必要がある。

２．研究の目的

上述の研究の背景を踏まえ、本研究は、東南アジアにおける介護リゾートの生成と日本式介護の越境化の関連を明らかにすることを目的としている。具体的には、介護リゾートの生成がみられる東南アジアのマレーシア、タイ、フィリピンを事例に、日本人高齢者の国際退職移住が顕著な当該地域における高齢者向けの介護リゾートの生成過程を解明し、「日本式介護」の越境化によるケアに関する知識や技能の越境的伝播、現地社会の受容の過程、さらに当該諸国に居住するローカルの高齢者と外国人高齢者の介護をめぐる意思決定と生存戦略に与える影響を明らかにする。外国人高齢者の国際移動の発生に伴う介護サービスの事業化の過程を分析し、とりわけ、「日本式」とされる日本の高齢者介護に関する知識や技能の越境的伝播と変容がケアの越境化の過程において果たす役割を明らかにする。

マレーシア、タイ、フィリピンを調査地とする理由は、1)当該地域への外国人高齢者の国際移動と居住の長期化により、現地における高齢者向けの医療サービスや介護ニーズが高まっていること、2)介護リゾートの生成がまだ初期の段階にあり、東南アジアの複数の国や地域が各々の資源を活用し独自に受け入れ制度を整備するなか、介護リゾートや退職村が点在・分散していること、3)現地社会の高齢化の進展に伴い、ローカルの富裕層・中間層を中心に、高齢者介護のニーズも高まっていることである。従って、一つの国を取り上げるだけでは、不十分である。

本研究では、(1) 介護リゾートの生成過程:外国人高齢者向けの医療・介護サービスの事業化、（2）現地における日系介護事業者の国際展開、（3）高齢者介護(ケア)の知識と技能の越境的伝播と受容、を具体的な調査課題に設定した。マレーシア(クアラルンプール)、タイ(バンコク・チェンマイ)、フィリピン(マニラ・クラーク)を調査地として選定し、文化人類学の手法を用いた現地調査を行い、介護リゾートの生成過程と日本式介護の越境化の実態を把握した。

３．研究の方法

上記の研究目的を達成するために、具体的には、以下の 3 つの項目を調査課題とし、文化人類学の手法を用いた現地調査を行う。

(1)介護リゾートの生成過程:外国人高齢者向けの医療・介護サービスの事業化

東南アジア諸国の医療ツーリズム政策と高齢者の国際移住政策の実施状況に関して、政府関連機関への聞き取り調査を行い、東アジアと欧米出身の退職者、高齢者の東南アジア諸国への国際移住の動向と現地における外国人を対象にした医療・介護サービスの拡充について明らかに

する。さらに、介護リゾートの立地として選定される場所に関して、環境および社会文化的要因を明らかにする。
(2)現地におけるリタイヤメント産業・日系介護事業者の国際展開
当該諸国において、介護リゾートや退職村の事業化を行うリタイヤメント産業の実態を明らかにする。さらに、現地の民間病院、ヘルスケア産業、仲介者となる医療エージェントに対して聞き取り調査を行い、動向を把握する。その上で、日系介護事業者の国際展開を重点項目に設定し、サービス内容や施設における参与観察を実施し、「日本的介護」の事業化の全容を解明する。
(3)高齢者介護(ケア)の知識と技能の越境的伝播と受容
当該諸国の介護リゾートにおいて、「日本式介護」としてサービス化される高齢者介護の知識と技能がいかなるものであるのか、またどのように習得されるのかを介護施設における参与観察と事業者への聞き取り調査によって明らかにする。

４．研究成果
本研究の遂行は、コロナ禍のなか現地調査の実施が困難な時期があり、とくに現地調査に関しては、調査先や対象を一部限定し、主に事業主に対し聞き取り調査を行った。
マレーシアのクアラルンプールに日本企業として初進出し、高所得者向け高齢者介護施設を開設したＡ社は、外国人や日本人退職移住者を主たる対象としておらず、民族や文化的背景の異なるマレーシア人高所得者が共に暮らす施設の開設に向けて準備中であった（2019 年 8 月調査時)。
(1) マレーシア・クアラルンプールの事例（施設 A、施設 B）
「マレーシア初のナーシングホーム」を自認する施設Ａは、クアラルンプール郊外の住宅地に新たに開設された高齢者介護施設である。インド系マレーシア人の経営者夫婦が、マレーシアのクアラルンプールに進出した日本の介護事業者と連携し、合弁事業の運営を行っている。社名に日本語を用いていること、日本の高齢者介護事業者と連携していることが日本式介護とされる理由であるが、現状として、具体的な日本式介護という特徴は、個室を基本とした清潔な居室であることが挙げられた。マレーシアでは、高齢者介護施設は広く普及しているとはいえず、都市部のごく一部の中間層以上の家庭で需要が生じており、高齢者に認知症、身体的問題、医療的理由があるときだけ、介護施設を必要とする状況である。75 歳以下の高齢者の場合、高齢者本人が施設入居の決定を含む意思決定を行う。75 歳～85 歳（とそれ以上）の場合、子供が意思決定を行う。入居者には外国人も含まれ、イギリス人とオーストラリア人が生活している。入居者本人が自分でできない場合、介護施設がトラスティ（管財人）になり、資産を整理し入居の手続きを行っている。
施設Ａの経営者はＡよりも先に開設されたもう 1 件のナーシングホームをペタリンジャヤで経営しており、入居者は２０名である。会計士や医師など高度専門職であった中間層以上の高齢者が多い。子供がオーストラリアで暮らしているため、施設入居を選択したという元会計士のインド系マレーシア人男性のように、マレーシアの中間層以上の家庭の移民現象との関わりのなかで高齢者施設介護の需要が生じている側面が明らかとなった。またこの施設には 2 名の外国人高齢者（シンガポール人とイギリス人）が入居しており、長期滞在のビザをもつ単身の外国人単身者であるということであった。この施設の状況からは、日本人以外の外国人による国際退職移住と高齢者介護施設のニーズに相関関係があることが明らかとなった。

(2) タイ・バンコクとチェンマイの事例（施設 C、施設 D）
タイのバンコクで日本式介護をタイ人の中間層向けの介護事業に導入する事業を展開していた日本の介護事業者は、本研究の期間にタイの事業から撤退した。そのため、タイにおいて日本式介護を事業として行っている介護施設はバンコクにもチェンマイにもなく、チェンマイには欧米人向けの介護リゾートのみが展開している状況にあることが現地調査で明らかとなった。
チェンマイでイギリス人経営者が運営する介護リゾートである施設 C には、ヨーロッパ出身の要介護高齢者が 16 名ほど入居しており、タイ人のケアワーカーとスタッフのケアや支援を受けて暮らしていた。入居者の多くは、タイをはじめとする東南アジアに駐在した経験のある人々が多く、タイの生活文化や社会に馴染みがあるということであった。女性よりも男性が多く、中には夫婦で暮らしているケースもあるということであった。
同じくチェンマイにはスイス人の経営する介護リゾートでる施設 D があり、ドイツ語話者やイギリス人の入居者が 20 名ほど入居していた。なかには、タイ人のパートナーとともに暮らすドイツ人高齢者の男性や、イギリスに妻と子供が暮らしており、定期的に面会にやってくるという遠隔地介護を受けているイギリス人高齢者男性もいた。日本人の事例に比べ、チェンマイの欧米人向けの施設が大規模であり、多くの入居者が生活する介護施設として経営が成り立っていることが明らかとなった。

(3)フィリピン・マニラとクラークの事例（施設 E）
フィリピンのクラークにある施設Ｅは、日本人男性経営者とフィリピン人妻とスタッフが

運営する長期滞在施設である。介護施設ではないが、なかには日常生活に支援の必要な日本人高齢者が長期的に滞在しているほか、教育移住の母と子が居住している多世代型の施設であった。クラークにおける都市開発の動向に伴い、今後クラークにおける長期滞在者の増加が見込まれることから、クラークから近いスービック地区にある高齢者介護施設との連携の事業計画をもっているということであった。施設 E はゲートコミュニティとして、セキュリティや危機管理ができているが、近隣コミュニティの参与観察からは、施設 E の所在地が韓国人居住者の多い地区であることや、英語留学の人々に人気の滞在地であることが分かった。

施設 E には、これまでにマレーシアで長期滞在の経験のある日本人高齢者の女性が単身で滞在しているほか、単身の日本人高齢者の男性が 2 名滞在していた。さらに、母子留学のために名古屋からきた三世代家族が暮らしていた。クラークの語学学校で英会話を学ぶ 10 歳の娘と、プレスクールに参加する 2 歳半の娘とその母親であり、10 歳の娘の姉と、2 歳半の孫にとって祖母であり二人の娘の母である女性の 4 名での教育移住中であった。施設 E のようなコミュニティがあることで、英語に不安のある母親が母子留学にチャレンジできること、また、建設中のコンドミニアムを購入予定であり、長期的にはクラークを拠点に事業を開始することも念頭に移住している。名古屋で工場を経営しているため、フィリピン人技能実習生の受け入れを行っており、日本での生活でもフィリピンと関わりをもつ環境であったことがわかった。日本の公教育には不信感しかないというこの家族にとって、フィリピン留学移住は、様々な価値観に触れ、日本の外側から日本を見るための視点を養うことを主眼に、子供たちにグローバルな教育を身につけさせることを目的としていることがわかった。中高年を含む三世代が共に外国生活に関わる支援やサービスを受けられる施設 E のような事業形態は、国際退職移住と教育移住が別々の現象ではなく、高齢者と子育て世代が同居する三世代型のライフスタイル移住を可能にさせる仕組みであることが明らかとなった。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　1件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 Hall Kelly、Ono Mayumi、Kohno Ayako	４．巻 9
２．論文標題 British and Japanese international retirement migration and creative responses to health and care challenges: a bricolage perspective	５．発行年 2021年
３．雑誌名 Comparative Migration Studies	６．最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s40878-020-00217-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

１．著者名 小野　真由美	４．巻 第8・9号
２．論文標題 国際退職移住とロングステイツーリズム	５．発行年 2020年
３．雑誌名 マレーシア研究	６．最初と最後の頁 185
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計4件（うち招待講演　1件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 小野真由美
２．発表標題 海外で介護することと看取ること：日本人高齢者のマレーシア移住の事例から
３．学会等名 日本エンドオブライフケア学会第四回学術集会
４．発表年 2021年

１．発表者名 小野真由美
２．発表標題 医療のこれからとウエルネス（パネル討論）
３．学会等名 日本医療病院管理学会第401回例会（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Ono, Mayumi
２．発表標題 Elderly care facilities as a mobility industry: The case of international retirement migration in Malaysia and Thailand
３．学会等名 NODE UK/Japan International symposium, New and old migrations in UK and Japan, Waseda University
４．発表年 2019年

１．発表者名 小野　真由美
２．発表標題 マレーシアの医療・介護のゆくえ：医療ツーリズムと高齢者介護事業の展開からの一考察
３．学会等名 日本マレーシア学会
４．発表年 2019年

〔図書〕　計6件

１．著者名 市野澤　潤平	４．発行年 2022年
２．出版社 ナカニシヤ出版	５．総ページ数 194
３．書名 基本概念から学ぶ観光人類学	

１．著者名 松尾 昌樹、森 千香子	４．発行年 2020年
２．出版社 岩波書店	５．総ページ数 264
３．書名 移民現象の新展開	

1．著者名 小野　真由美	4．発行年 2019年
2．出版社 明石書店	5．総ページ数 288
3．書名 国際退職移住とロングステイツーリズム―マレーシアで暮らす日本人高齢者の民族誌	

1．著者名 白坂 蕃、稲垣 勉、小沢 健市、古賀 学、山下 晋司	4．発行年 2019年
2．出版社 朝倉書店	5．総ページ数 464
3．書名 観光の事典	

1．著者名 信田　敏宏	4．発行年 2019年
2．出版社 丸善出版	5．総ページ数 832
3．書名 東南アジア文化事典	

1．著者名 白坂 蕃、稲垣 勉、小沢 健市、古賀 学、山下 晋司	4．発行年 2019年
2．出版社 朝倉書店	5．総ページ数 464
3．書名 観光の事典	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関